



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

糖尿病と認知症

当研究会副理事長

東京医科大学八王子医療センター 植木 彬夫 [医師]

糖尿病では認知症を併発することが多いと考えられています。その原因として脳梗塞による後遺症としての脳血管性認知症があげられていましたが、最近の研究ではアルツハイマー病による認知症が増えていることも指摘されています。脳梗塞は動脈硬化による血管障害が主因ですが、アルツハイマー病では高血糖や低血糖、あるいはインスリン抵抗性など直接血糖コントロール状態が関連していることも判ってきました。

認知症の症状は最初、物忘れ（記憶障害）から始まり、やがて時間や知人の顔が判らなくなり（見当識障害）、認知力が鈍って、時にはインスリンの注射の仕方がわからなくなったり、食事が作れなくなったりする症状（判断力障害）が出現し、やがて失語や失行などの行動が出来なくなる状態になってしまいます（高次機能障害）。

このような症状（中核症状）を生じると患者自身では糖尿病の自己管理は困難になり、家族や社会資源を利用した支援、介護が必要になってきます。我が国には介護保険制度がありますが、毎日の食事や服薬、自己注射などの支援や介護をその保険でまかなうことは困難です。また患者が認知症の場合、その相方も高齢者であったり、時に認知症のこともあります。このような時にはどの程度のコントロールをすべきなのか、どのような方法を持ちいるべきなのか、現実には何が出来るのか、多くの課題が目の前に積み重なっています。

すでに時代は高齢化社会です。待ったはありません。西東京でも糖尿病と認知症は喫緊の課題として取り上げられています。血糖コントロールの当面の目標は、高血糖によるケトosisや高血糖昏睡を起こさないこと、低血糖を起こさないこと、栄養失調にならないこと、感染症を予防しシックデイを避けることです。治療薬の選択も従来のように病態生理から選択するのではなく、服薬回数や注射回数が少なく、摂食と服薬との時間的コンプライアンスが良いこと、低血糖を起こさないこと、腎機能を悪化させないこと、治療費がローコストであること、など医学的選択基準よりは行動学、社会学的側面を加味した選択が必要になります。その中でもインスリン療法が絶対的に必要な場合、だれが毎日インスリンを注射するのかという命題への回答はありません。本研究会ではその回答探しを行っています。会員の皆さんの叡智とアイデアを教えてください。

新企画



西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間に50単位を取得する必要があります。当研究会会員は、会報「Mano a Mano」の問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**（5年間で10単位）を獲得できるようになりました。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導に役立ててください。（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。）

『問題』以下の文章は糖尿病患者への療養指導の必要性を述べている。正しいのをひとつ選んで下さい。

- 良好な血糖値のコントロールだけが、合併症の発症を予防し、発症した合併症の進展を防ぐことができるので生涯にわたって、患者と医療者の密接な連携による療養指導が必要である
- 基本となる食事、運動療法、薬物療法の処方医師が行い、日常生活に合わせた変更はするべきではない
- 糖尿病療養指導士は糖尿病療養指導全般に精通し、必要があれば医療法を越えて指導することも出来る
- 療養指導士は、患者がどのような時でも厳格なコントロールを行えるように指導することが求められる、そのために「糖尿病療養指導士」の資格が与えられている
- 糖尿病の血糖コントロールは患者自身が行うものであり、医療者はその支援者でしかない

（答えは7ページにあります。）

研究会等の実施報告



西東京CDE研究会 第10回症例検討会

平成24年1月31日（火）立川市女性総合センターアタイムにて開催されました。



研修の実施報告

当研究会会員 くにたちウラン薬局 森 貴幸

2012年1月31日にて第10回症例検討会を行いましたのでご報告いたします。もうすぐ発生から1年を迎える東日本大震災の被災地に行かれて医療支援を行っていただいた医療法人社団ユスタヴィア理事長の宮川高一先生と緑風荘病院の西村一弘先生に「被災地での糖尿病



医療の実際」という内容でお話いただきました。

宮川先生は宮城県石巻市で活動されてきた内容や現地の写真を用いながらお話していただきました。チーム医療の重要性や混乱している現地では糖尿病をはじめとする慢性疾患をどのようにフォローしていくかなど問題提起がされました。そしてこれから起こる可能性の高い首都直下型地震をどう乗り切るかの課題を考えさせられました。

西村先生からは数回宮城県気仙沼に行かれ、CDEの立場からと行政とのかかわりの中での役割などの重要性を考えさせられました。被災地への継続的な支援を行う上でカギとなる人の大切さも分かりました。被災地の食事の状況を考えサポートする必要性を感じました。



東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。



研修のご感想

杏林大学医学部付属病院 海老澤 美奈 [看護師]

「被災地での糖尿病医療の実際」というテーマを知り、震災時は育児休業中で、一人の母親としての動きしかできなかった私は、医療者らがどのように動いていたのか、報道以外での実際を知りたくて、参加しました。

報道で被災地が全ての面で混乱していることは知っていましたが、宮川先生からの、DMATの支援が入っているにも関わらず、慢性疾患患者の把握・診療が十分ではなかった事は、驚きました。しかし、被災地の実際を聞くと、医療者から働きかけていかなければ急性疾患患者以外は我慢するという気持ち等から、支援を受けられる状況ではなかったのが分かりました。

西村先生の、栄養士が入っても栄養指導をできる状況ではないが、話を聞く事だけでも良いから活動していたという事。そんな中からの栄養ケアセッションの立ち上げは、地道に地域で活動していく大切さが分かりました。

お二人の先生からの多くの写真を用いた講演は、震災後、不自由なく暮らしている中、多方面で備えることの大切さを実感しました。

また、同じ医療者が震災の場で活動していたことを誇りに思い、今回の内容を他者に伝えていく必要があり、自分は何ができるのか、考えるきっかけになりました。



研究会等の実施報告



第59回 多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会

平成24年1月16日（月）多摩北部医療センターにて開催されました。

1月16日に多摩北部医療センターにおいて「第59回多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会」が開催されました。今回の当番世話人は多摩北部医療センター 内分泌・代謝内科 藤田寛子先生がご担当されました。



一演題目は、小児科 仁科範子先生より「インスリンポンプを導入した若年Ⅰ型糖尿病の一例」との演題でご講演頂きました。二演題目は、歯科口腔外科 森下仁史先生、内分泌・代謝内科 藤田寛子先生より、「糖尿病が悪化し、顎炎ならびに顎骨周囲膿瘍を生じて明らかになった、ACTH症候群の一例」との演題でご講演頂きました。

実際にインスリンポンプなどの製品に触れてのご紹介や、各演題において様々な職種から活発な意見交換が行われ、本会は盛況のうちに終了致しました。



東京臨床糖尿病運動療法研究会 第1回運動療法症例検討会

平成24年1月28日（土）ファーレ立川センタースクエアにて開催されました。



平成24年1月28日にファーレ立川センタースクエアにおいて東京臨床糖尿病運動療法研究会（運研）第1回運動療法症例検討会が開催されました。当会・新規会員を含め31名の参加者がありました。

代表世話人である東京医科大学八王子医療センター 第三内科 植木彬夫先生の進行の下、ショートレクチャーとして立川相互ふれあいクリニック 健康運動指導士の小池日登美先生より「あなたはどんな現場で運動指導していますか？」の演題で運動指導のABCをわかりやすく、ご講演頂きました。後半の症例検討ではグループに分かれ、「この症例、あなたならどうしますか？」と題し東京医科大学八王子医療センター 理学療法士 天川淑宏先生より、実際に長期運動療法に介入した症例を挙げていただきグループごとにディスカッションを行いました。



この検討会は運研の症例検討会として第1回目を行いました。7月の第4回運研本会（予定）にて症例なども募集予定ですので多数の先生の御参加をお待ちしております。



研究会等の実施報告



第12回 西東京糖尿病療養指導士認定試験

平成24年2月12日（日）東京経済大学にて実施されました。



平成23年度 受験状況

受験者職種	人数	%
看護師・准看護師	49	38.0
管理栄養士・栄養士	40	31.0
薬剤師	20	15.5
臨床検査技師	11	8.5
理学療法士	5	3.9
その他	4	3.1
受験者合計	129	100.0

平成24年2月12日（日）東京経済大学において、昨年9月から12月に開講された「西東京療養指導士養成講座」を修了した129人の受験者が熱心に試験問題に取り組みました。そのうち、102人が見事合格され、西東京糖尿病療養指導士として認定されました。

合格通知は、下記認定式のご案内とともに3月中旬より順次発送させていただきます。

ご多忙とは存じますが、合格者の皆様は、是非、認定式にご出席くださいますようお願い申し上げます。

第12回 西東京糖尿病療養指導士認定式

開催日：平成24年4月5日（木）

19:00～21:00

場 所：立川市女性総合センターアイム1階ホール
（JR立川駅 南口徒歩5分）

第9回 西東京インスリン治療研究会

平成24年2月18日（土）ザ・クレストホテル立川にて開催されました。

第9回西東京インスリン治療研究会は「CGMをめぐって（CSII含む）」をテーマに2月18日（土）、ザ・クレストホテル立川にて開催されました。特別講演は埼玉社会保険病院 丸山太郎先生の講演がご都合によりキャンセルとなり、プログラム内容一部が変更され実施されました。3つの一般演題および特別講演は当初の講演時間を延長して実施されました。また杏林大学医学部付属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科 教授 石田均先生より、カーボカウントに関する講演が行われました。プログラム内容は変更となりましたが、16:00～19:40開始・終了時間は予定通り実施されました。

一般演題はみなみの糖クリニック 小澤幸彦先生、都立多摩総合医療センター 西田賢司先生 座長のもと、以下3題の講演が行われました。

演題1：「当クリニックにおける糖尿病療養指導の現状 ～インスリン導入 その前に～」という演題で、みなみの糖クリニック 吉澤まり子先生より、外来通院加療中の糖尿病患者さんに対して病状の現状把握の為に、クリニックで施行している療養指導の現状についてお話をいただきました。

演題2：「CGMによるリラグルチドの臨床効果の検討」という演題で、都立多摩総合医療センター 佐藤文紀先生より、リラグルチド導入症例（経口糖尿病薬からの切り替え、インスリンからの切り替え）について、導入前後でのCGMデータを紹介いただきました。

演題3：「CGMでみた運動療法の効果」という演題で、杏林大学医学部付属病院 炭谷由計先生より、CGMを用いて定量運動が24時間血糖変動へ与える影響について、お話をいただきました。↗



研究会等の実施報告



杏林大学医学部付属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科 教授 石田均先生 座長のもと、以下の講演が行われました。

座長からのメッセージ：「正しいカーボカウントへの道」という演題で、杏林大学医学部付属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科 教授 石田均先生より、食品交換表とカーボカウントについて、分かりやすくお話いただきました。また食事内容と糖尿病発症に関する疫学調査について最新の治験をご報告いただきました。

特別講演：「1型糖尿病におけるカーボカウント、CSII、CGM」という演題で、大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 講師 川村智行先生より施設での1型糖尿病患者のカーボカウント、CSII、CGMの実症例を交えて、施設での治療法を講演いただきました。食事、運動療法等、患者に受け入れられやすい方法に関しても、実践的な内容を含めて紹介いただきました。

参加者は医師36名、コメディカル74名、計110名のご出席をいただき、盛況の中無事閉会いたしました。次回は、2013年2月23日(土)開催予定です。テーマは、「インスリン治療の近未来」の予定です。実践に即したすぐに役立つ情報をお届けすることを目指し次回も多数の医師およびコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。

第27回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成24年1月27日(金) 立川市女性総合センターアイム、
平成24年2月28日(火) ルミエール府中にて開催されました。



当研究会評議員 近藤医院 飯塚 理恵

【今回のメニュー】

- ◎チキンドリヤ ◎温野菜サラダ
- ◎トマトの具だくさんスープ
- ◎リンゴのコンポート



第27回糖尿病食を作って食べて学ぶ会を1月27日立川、2月28日府中で開催し、計37名の参加がありました。今回のテーマは参加者アンケートでリクエストの多かった「エネルギーの低いホワイトソース」を使ったドリヤでした。普段はエ

ネルギーが高いので、グラタンやドリヤは食べるのを控えているという方が多くいましたが「これなら安心して食べられるので嬉しい。」「今回のホワイトソースを参考にしようちでまた作ってみたい。」という声が聞かれました。また、リンゴのコンポートも甘くて美味しいと好評でした。

次回第28回調理実習は4月24日(火)立川、5月25日(金)府中で開催します。食事の量がわからない、味付けの加減がわからないなどの悩みがある患者様がいらっしゃいましたら是非お声かけ下さい。申込みの詳細につきましては事務局にお問い合わせ下さいますようお願いいたします。



第27回 調理実習

りんごのコンポート 温野菜サラダ

チキンドリヤ トマトの具だくさんスープ

2012年1月27日(金) 立川市女性総合センターアイム
NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

※ 栄養成分表示は1人分です

😊 ドリヤはいつもカロリーを気にしながら食べている。普段うちでは作らないがこれなら家で作れると思う。早速作ってみたい。

😊 ドリヤが美味しかった。食べたかったがずっと我慢してきたので、今日はとても幸せだった。

😊 家族がいて同じ食事を食べているので、一緒に食べられるドリヤを実習できて良かった。簡単だったので家でも作りたいと思う。

😊 リンゴのコンポートが美味しかった。インスリンを打っている人と一緒になって自分と同じ人がいるのだと分かった。今日が第3のスタートになった。一人暮らしだが来てよかった。

研究会等の実施報告



第30回 糖尿病連絡会

平成24年2月22日（水）公立昭和病院にて開催されました。



2月22日水曜日、公立昭和病院 大講堂において、第30回糖尿病連絡会が開催されました。参加者は、過去最高の59名と大盛況であった。

講演1として滝山病院 院長 小笠原芳宏先生から「介護職の方に知ってほしい糖尿病治療の問題点」をご講演いただいた。介護職の方を対象とした糖尿病治療に対する意識調査のアンケート結果からグループホームでの現状、問題、課題を提示され、活発なディスカッションへと繋がった。

特別講演として多摩北部医療センター 内分泌代謝内科 医長 藤田寛子先生から「新しい診断基準と治療法の実践 ～高齢者を中心に～」をご講演いただいた。2010年7月1日より、新しい糖尿病診断基準が施行され、国際標準化に向けた改訂ポイントであるHbA1cの値・表記法を解説された。更に糖尿病の臨床診断のフローチャートを用いて新しい糖尿病診断基準のポイントを言及された。また、高齢者糖尿病の症例を提示され、特に高齢者については臨床データだけで患者フォローするのではなく、生活様式や患者背景を一人ずつ把握することで患者に合った治療、トータルケアが何よりも大事になってくると強調され、活発な質疑応答の中で会を終了することができた。



◆◆連載コラム ～テーマ「更年期」～（全3回）◆◆



「今は産む性？ 産まない性？」 第1回



～婚活、妊活、更活??～

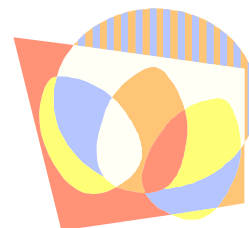
当研究会会員 畑中医院 畑中 恭子

バリバリと仕事に励み、そろそろ子供が欲しいと願いながら中々妊娠出来ずに専門病院を受診し卵子の老化が妊娠しにくい理由と告げられショックを受けたり、タイムリミットを前に卵子の凍結を依頼した女性が集められた番組が思い出される。産む性を生きている女性に卵子の老化が待ち受けていること

を誰が教えてくれたらろう。

私達女性は母の胎内にいる時に、左右の卵巣に卵子の基である卵母細胞を数百万個も貯えている。思春期を迎える（卵母細胞30万個）と脳からの指令の基に一定の周期を保って排卵を繰り返す（ぼろっ、ぼろっ）が、閉経時にはその数は1000個程度に減っている。年齢と共に妊娠しづらくなって行くのは、この卵母細胞の質と量の低下に依る処が大きい様。平均的に言えば、日本人女性の一生の内にこの卵子が妊娠から子の誕生に至るのは、およそ400回の排卵のうちの1回か2回なのだから、卵巣からみれば空しい努力なのか、もったいないのか??

ともあれ卵巣から分泌される2種類の女性ホルモン（卵胞ホルモンと黄体ホルモン）がまずこの産む性をしっかりと支えていることに間違いはない。産む性を維持する為に、皮下脂肪を蓄えた丸みの有る体は保たれ、弾力の有る肌や粘膜の潤いも保たれ、骨や血管の老化からも守られていると言え無くもない.....か。



研究会他のお知らせ

 直接事業
 間接事業
 その他

 第9回 南多摩糖尿病教育研究会 **(※お申込みが必要です。)**

※詳細は同封の資料をご覧ください。

開催日：平成24年4月12日(木) 19:10~21:10

場 所：日本医科大学多摩永山病院 C棟2階 第1集会室(京王線・小田急線「永山駅」徒歩3分)

参加費：500円

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。

FAX：042-362-1602(宛先：ノボ ノルディスク ファーマ(株) 酒本)

申込締切：4月6日(金)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

 第33回 糖尿病スタッフ教育研究会 **(※お申込みが必要です。)**

※詳細は同封の資料をご覧ください。

開催日：平成24年4月21日(土) 16:00~4月22日(日) 12:10

場 所：横浜市の公共の宿「上郷・森の家」(横浜市栄区上郷町1499-1)

(JR大船駅笠間口から神奈中バス金沢八景行「森の家前」下車、徒歩7分)

参加費：10,000円(宿泊・食事代を含む)

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXもしくはお申込み用紙と同内容明記のうえ葉書でお申込みください。

FAX：045-474-0347(宛先：ノボ ノルディスク ファーマ(株) 原田)

申込締切：4月6日(金)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>看護・栄養士共に：2単位申請中

 NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 平成24年度総会・第51回例会 **(※お申込みは不要です。)**

テーマ：「糖尿病治療のPros&Cons」

※詳細は同封の資料をご覧ください。

開催日：平成24年6月9日(土)

総会 13:20~13:50

例会 14:00~17:30

場 所：府中グリーンプラザ・けやきホール(京王線「府中駅」下車・北口徒歩1分)

参加費：会員無料(非会員：1,000円)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：<2群>1単位申請中

★日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中



『答え』

e.

(問題は1ページにあります。)

『解説』

下記の解説をよく読みましょう。



- 合併症は血糖コントロールにより予防は出来ませんが、一度発症してしまえば血糖だけではその進展は阻止できません。腎症は初期から血压管理や、塩分制限が必要であり末期には蛋白制限も必要になります。
- 糖尿病の患者は病気のために生きているのではなく、個人として、社会人として生きています。また、病気の日(シックデイ:sick day)や様々なイベントを持って生活していきます。これらに出来るだけ合わせる工夫が長く続ける治療として必要です。
- 糖尿病患者の療養指導を行うメディカルスタッフは糖尿病療養に必要な知識や技術を指導することが出来ますが、注射や自己血糖測定、薬物の変更などは行うことが出来ません。
- 高齢者やシックデイ、様々なイベントなど人生の中では常に厳格なコントロールが求められるものではありません。時と場所に応じてコントロール目標は変化します。
- どのような良い薬であっても、インスリンであっても、患者の療養が出来ていなければ血糖コントロールは出来ません。医療者は患者に代わることはできません。あくまで教育者であり支援者なのです。

教えて！糖尿病Q&A



質問者：匿名[看護師]

4月1日からHbA1cが変わることになったと聞いていますが、何故ですか。またコントロール基準などはどうなるのですか。



回答者：東京医科大学八王子医療センター 植木 彬夫[医師]

HbA1cは赤血球中の酸素や炭酸ガスを運搬する蛋白質の一種であるHb（ヘモグロビン）とブドウ糖が結合（糖化）したものです。この結合はメイラード反応といって、蛋白質とブドウ糖の軽い結合（シッフ結合）から強い結合のアマドリル結合へと進み、最終的には蛋白質とブドウ糖が分離できない状態になってしまった最終糖化産物（advanced glycation endproducts；AGEs）になります。Hbの糖化最終産物がHbA1cです。Hbとブドウ糖の結合状態はシッフ結合からなる不安定HbA1aやHbA1bなどもあります。高純度にHbA1cだけを測定（JDS値）しているのは日本だけで、世界の多くの国ではHbA1cと一部HbA1aやHbA1b等も一緒に測定（NGSP値）しているのでその分高値になります。日本の測定方法（JDS）の方がより厳密に測定しているのです。しかし欧米や発展途上国など用いられている、簡単ではあるが日本より雑な測定方法（NGSP）が世界基準になったため、これに合わせるため、日本では今までの測定方法で得られたHbA1cの値に+0.4を加えることになりました。正式には $HbA1c(NGSP) = 1.02 \times HbA1c(JDS) + 0.25$ の式を用いて計算します。簡便な方法は従来のHbA1cの5.0~9.9%までは0.4%を加え、5.0%未満の時には0.3%を加え、10%以上の時は0.5%加えれば計算は不要です。コントロール基準や診断基準もこれに従い変更になりました。施設によりJDS値とNGSP値が表示されている所もあります。

基準範囲	4.6~6.2
診断基準	≥6.5
コントロール目標値	<6.9
糖尿病の疑いが否定できない群	6.0~6.4
糖尿病発症の高リスク群	5.6~5.9

優	6.2未満
良	6.2~6.9未満
可	不十分 6.9~7.4未満
	不良 7.4~8.4未満
不可	8.4以上

H24年まではJDSでよい	
保健指導	≥5.6
H24年まで	≥5.2
受診勧奨	≥6.5
H24年まで	≥6.1



《広報委員会より》 Q & Aの質問をお寄せ下さい。委員もしくは専門分野の先生に答えてもらいます。
宛先（Q & A受付専用）：qanda@lagoon.ocn.ne.jp お名前（匿名可）、職種をお書き添えください。

事務局からのお知らせ



会員の皆様へのお知らせ

《平成24年度年会費の納入をお願いします》

●『平成24年度年会費』の払込票を同封致しております。期限（本年6月末）までに払込みをお願い致します。当研究会の活動は、会員皆様の会費より成り立っております。何卒、ご協力のほど、お願い申し上げます。

《会員情報の変更の際は届け出をお願いします》

●『変更届出書』を同封致しております。職場の異動、ご自宅の転居、結婚等により、ご登録の内容に変更が生じましたら、お早めに『変更届出書』をご提出ください。ご提出いただかないと通常の時期に会報やその他のご案内が届けられなくなりますので、ご注意ください。

《当会ホームページリニューアルのお知らせ》

●現在、当会ホームページはリニューアル作業を行っている為、これまでのホームページは閲覧できません。これから行われる研修会情報等は、これまでと同じアドレスにて、ブログ形式でご案内しております。しばらくの間、ご不便をお掛け致しますが何卒ご了承ください。

平成24年度 会員総数

会員総数……………880人
医師……………176人
コメディカル……………704人
【管理栄養士紹介登録数 47人】

平成24年3月21日現在

《発行元》

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ山山No.3-802
TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478
<http://www.nishitokyo-dm.net>
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

《編集後記》



先月号でも花粉症の話題がありましたが、自分は物心ついた時から花粉症でした。鼻炎、結膜炎のため、自分にとって春は非常に辛い季節なのですが、新しい出会いも多く、むしろ好きな時期かもしれません。さて、新年度となり、我々広報委員会では会報誌やホームページを昨年度以上に充実したものにすべく取り組んでいく予定です。是非、皆さんのご意見・ご感想をお寄せ下さい！（広報委員 佐藤 文紀）